

令和4年度自己点検自己評価(令和4年4月1日～令和5年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価(平均)	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切に対応・・・4 ほぼ適切に対応・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1			適切に対応・・・4 ほぼ適切に対応・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1	
1 教育 理念・ 目的・ 育成 人材 像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	4	【1-1-1】 滋慶学園グループ・福岡ECO動物海洋専門学校としての理念・目的・育成人材像はしっかりと定められている。 【1-1-2】 開校以来ペット・海洋・動物業界から求められる人材を育成する産学連携教育を実施。技術やスキルなどの「実学教育」だけでなく、あいさつや対人スキル、社会人・プロの職業人としての身構え・気構え・心構えを身に付ける「人間教育」、国際的な感性を養う「国際教育」を行い業界の求める人材のニーズに適合させている。 【1-1-3】 産学連携教育の中で企業プロジェクト・企業課題を通して技術・スキルだけではなく接客や業界の求める社会人像などを知ることができる。 【1-1-4】 変革期を迎える動物・海洋業界においては、音・光・映像を用いたテクノロジーを活用した表現方法や、売上に直結する集客に貢献できるイベント企画力・ホスピタリティ、組織運営に携わることができるマネジメント力、インバウンドで海外からの旅行者が増加する中、英語で対応できる語学力など、次世代の人材を育成するための4年制専攻を構築し、業界の更なる発展に貢献していきたいと考えている。また、愛玩動物看護師の国家資格に対応した4年制、3年制の動物看護師専攻、世界的に意識が高まっている自然環境業界に貢献できる新専攻も設置している。	■滋慶学園グループのミッション 「職業人教育を通じて社会に貢献する」 ■滋慶学園グループのヴィジョン 3つの建学の理念を実践し4つの信頼を得ること 【3つの建学の理念】 「実学教育」「人間教育」「国際教育」 【4つの信頼】 「学生・保護者からの信頼」「高等学校からの信頼」 「産業界からの信頼」「地域からの信頼」 ■学校のコンセプトと育成人材 動物・自然とふれあい、人に喜びと感動を与える人材を育成する ■産学連携教育 業界が求める人材を業界と共に育成する産学連携教育。カリキュラムづくりから演習や実習までを業界のプロフェッショナルとともに行う。企業プロジェクト・企業課題では、企業や施設から要請をいただき、業界と共にイベント運営や調査など様々な課題に取り組み、まさしく即戦力育成につながっている。 ■教育課程編成委員会 本校では教育課程編成委員会を設置し、専攻分野に関する企業・団体との連携を通してアドバイスをいただき、授業内容の改善や工夫などを行っている。	3.8	・業界ニーズ、社会ニーズをとらえたもので評価できる。 ・説明通りで異議はない。 ・3つの理念、4つの信頼を達成し人材を育成することで、業界で求められる人材を輩出できていると思う。 ・時代の流れに合ったカリキュラムを取り入れることで、社会に出ても即戦力としての期待が大きいと思う。 ・多くの企業や団体と連携していることが、学校の特色・強みであると思われる。 ・専攻が多すぎて学生及び講師も困惑する姿が見受けられる。 ・新専攻に対する認知をしっかりとすべきだと感じる。 ・企業プロジェクトを増やしたい。
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか					
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか					
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか					
2 学校 運 営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	4	【2-2-1】 すべての運営方針は滋慶学園グループの理念に沿って定めている。 【2-3-1】 理念等を達成するために5年後を見据えた毎年の事業計画を定め、この計画に沿って教育・就職・広報・人事・収支などの運営を行っている。 【2-4-1】 本校の運営方針や収支予算・決算などは滋慶学園の理事会において承認を受け適切に運営を行っている。 【2-4-2】 事業計画の中で学校運営組織の人員構成・組織図・職務分掌を作り、役職における職責内容や職務権限を明確にしている。また滋慶学園グループの中期・短期の事業計画に沿って採用を行い、定期的にJESC(滋慶教育科学研究所)によるFD研修やグループ・学校主催の様々な人材育成のための研修を行っている。 【2-5-1】 人事・給与に関しては法人総務部と滋慶サービスで制度を確立しており、人事データバンクシステムや勤怠管理システムなどを活用しながら働き方改革にも取り組んでいる。 【2-6-1】 意思決定システムはプロセスに応じた会議・決裁者・最終決裁者を設定している。様々な目的により会議や委員会などを定期的に実施し滋慶学園グループの方針の確認・共有や企画立案、状況報告、連絡相談の場を設けている。 【2-7-1】 情報のシステム化については、広報では資料請求から入学までを管理する広報システム、教務では出欠管理システム・就職システムを通して学生の出欠管理やサポートアンケート状況の確認、カウンセリングの内容などの把握をし、総務・経理では勤怠管理システムや予算管理システムなどを導入し業務の効率化に努めている。	滋慶学園グループではグループ全体で教育の質的向上を目指すため、独自の研究機関としてJESC(滋慶教育科学研究所)を設置。JESCでは教育力・運営力向上を目的とし、教職員・講師を対象に研修を実施している。「教育の質は、実践する教職員の成長により向上する。」という考えのもと、新入職者からマネジメント層に至るまで、それぞれの職務に必要なマインドの養成とスキルアップを目指している。 ＜JESC主催の主な研修内容例＞ ・新入職研修(広報研修・FDマイクロレベル研修) ・FDマイクロレベルフォローアップ研修・FDミドルレベル研修 ・FDマクロレベル研修・FDセッションコーチ研修 ・進路変更アドバイザー研修・キャリアサポートアンケート勉強会 ・マネジメント研修・広報力大会・滋慶教育科学学会 ・キャリア教育アドバンス研修 など ＜その他研修例＞ ・人権同和問題企業主研修会・留学生担当職員研修会・認定CPOアカデミック資格講座・LGBT研修・専門課程、高等課程ごとの講師研修会等 【情報システム】 ◎広報業務システム・・・資料請求～出願までの情報を管理できる ◎出欠管理システム・・・在校生の出欠、成績、カウンセリング内容を管理できる ◎就職システム・・・全国の求人を閲覧できるシステム ◎予算管理システム・・・年度内の予算で運営できるように予算確認から執行までを確認できるシステム ◎勤怠管理システム・・・教職員が健康でいられるように シフト管理を徹底し、公休日・有給休暇の消化、残業の調整などを行う ◎人事データバンク・・・人事に関する申請を簡略化するためのシステム	3.9	・時代を先読みし、また理念に基づいて運営されており信頼できる。 ・グループ全体での教育の質の向上を目指し、スタッフ全員でスキルアップを目指しているという点が素晴らしい。 ・概ね問題なく運営されている様だが、教員の離職が時々あるのが気になる。 スタッフのメンタルヘルスなど、負担になっていないか気を配る必要があると思われる。 ・5年毎に先の見通しを立て運営が行えているので、評価は適切と思われる。 ・情報システムを活用し、情報の管理だけでなく業務の簡素化・効率化等に役立てることができている事は良いことだと思う。 ・就職システムにおいて、現在学生たちはどのようにし求人情報を入手しているのか。
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか					
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか					
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか					
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか					
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか					
	2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか					

3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4	【3-8-1/3-8-2】 3つの建学の理念を踏まえ、4つの信頼を得ることで即戦力となる人材を育成し社会に貢献するというミッションのもと、ディプロマポリシー（卒業認定等の方針）・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーを設定し学年毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしている。	【3つのポリシー】 3つの建学の理念と4つの信頼に基づき即戦力となる人材を育成し社会に貢献するというミッションのもとに、3つのポリシーを策定している。	4.0	・教育活動の体制は明確になっており、問題なく運営されている。 ・3つのポリシーから、学校がどういう人材を育成し、輩出しようとしているかが良くわかる。目指す像が明確で良いと思う。 ・キャリア教育で学生がどのように成長・変容したかを客観的に見て振り返られるような機会があると、学生の自信にもつながると思う。 ・「人に喜びや感動を与える」ということは重要な項目であり、今後もキャリア教育に取り組んでもらいたい。 ・説明通りで意義はないが、演習はもう少し授業方法など考えて良いものもあるように感じている。 ・授業アンケート結果に対し、後に学校から意見・要望を受けたことはない。 ・教職員も研修があり、働きながら学び続けることができるので良いと思う。
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか					
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか					
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか					
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか					
	3-9-4 授業評価を実施しているか					
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか					
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか					
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか					
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか					
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか					
	3-12-2 教員の資質向上への取り組みを行っているか					
	3-12-3 教員の組織体制を整備しているか					

4 学 習 成 果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	4	【4-13-1】 コロナ禍の中での活動が定着しつつあり、オンライン・対面を併用した活動が主流となりつつある中、就職活動への意識づけと早期対応を行い対象率は昨年度より向上した。現在も若干名の卒業生が就職活動継続しているため、継続した支援を行っていく。今後、更なる対象率向上及びアフターコロナに対応した受験支援を行い、サポートを充実させていく。	〈就職実績〉 2022年度 卒業生数304名 就職希望者283名 就職決定者272名 就職対象者93.1%(昨年:90.3%) 就職率96.1% 〈資格取得率〉 ◎愛玩動物看護師国家試験 受験者 80名 合格者 57名 合格率 71.3% ◎JKC認定C級トリマーライセンス 受験者67名 合格者61名 合格率91.0%(昨年:64.7%) 〈主な就職サポート〉 ①進路カウンセリング ②就職出陣式・就職セミナー ③合同企業説明会 ④OB・OGセミナー ⑤インターンシップ ⑥就職保護者会 ⑦同窓会 ⑧卒業セミナー ⑨卒業生向け転職相談	3.7	・就職率の高さは保護者や学生が学校を選ぶ時のポイントとして大きく、強みだと思う。学校の評価した通りだと思う。 ・就職先を学生の希望の場所にしてあげたいという学校の想いが伝わった。 ・手厚い就職サポートは、学生も安心でき心強いと思う。保護者としても安心である。 ・卒業後も就職活動は続き、無事水族館へ就職できたという喜ばしい報告もあった。 ・卒業生の大規模な調査を実施し、意見を吸い上げフィードバックした方が良い。 ・国家試験の合格率が気になる。今後の活動に影響があるので少しでも合格者を増やしてほしい。 ・国家試験対策の課題として、不合格者の翌年サポートはあるのか？ ・資格取得の合格率が上っているのは適切な教育がなされているからだと思う。 ・過渡期であるこの時代に寄り添い指導していることがわかった。
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか		【4-14-1】 今年度より、愛玩動物看護師国家試験が開始となり一回目の受験となった。全国合格率平均88.9%に大して初年度ということもあり平均を下回る結果となったが、今年度の試験を経た対策を練り、全国姉妹校及び、JESC国家資格対策センターとの連携を強化し次年度以降の合格率向上を目指す。JKC認定C級ライセンスは前年64.7%に対して大きく上回る91%の合格率となった。学生の演習サポート及び試験前対策を強化できたためと考えられる。			
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか		【4-15-1】 産学連携教育の実践により授業や特別講義、企業プロジェクトを通して業界の方々や卒業生から就職の状況把握をしている。また、定期的な企業訪問を重ね卒業生の活躍を把握し、OB・OGセミナーなどの取り組みにより社会的評価を把握している。 コロナ禍の影響で同窓会の開催をオンラインでの実施に工夫するほかに、卒業生の転職相談や支援に力を入れている。			

5 学 生 支 援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4	【5-16-1】 就職専門部署のキャリアセンターを設置し、担任と連携をとりながら就職の相談、求人の紹介、合同企業説明会の実施、面接指導などの支援をしている。また、校内において就職活動への意識を高めるために就職セミナーや就職出陣式、業界で活躍する卒業生を招いてのOB・OGセミナーを行っている。キャリアセンターは全国の姉妹校と連携して求人やインターンシップ情報をシェアしている。 【5-17-1】 一昨年・昨年と比較すると全体の退学率は減少した。教務ミーティング、学科ミーティングによるチーム支援の成果が出てきている。ただし、学内で定めた目標には達していない。また学科によっては昨年より退学者が増加しているケースもあり、要因を考え修正していく。退学理由としては、長く続いたコロナの影響もあり経済的理由で断念するケースも増加。また徐々に解禁となった業界研修等で夢と現実のギャップが生じたケースもあった。引き続きチーム支援を行いながら、学園生活・授業満足度を向上させるために様々なイベントや多くの実習授業を提供していく。 【5-18-1】 学生相談窓口である滋慶トータルサポートセンターを学校から徒歩3分の場所に設置し、専属のカウンセラーが秘密厳守で学生の悩みや相談の対応をする体制を整えている。 【5-18-2】 滋慶国際交流COM(JTSC)を中心に留学生の修学状況の把握やビザなどの手続きから自国の家族へのフォローまで様々な生活面のサポートを行っている。学内に留学生対応の担当スタッフも配置。年に数回、ウェルカムパーティーなど、姉妹校合同で留学生の親睦会を実施している。積極的に友達作りができない留学生が孤立してしまわないように心掛けた。 【5-19-1】 学生支援機構の奨学金の他、滋慶学園グループ独自の滋慶奨学金、学費分納や延納などの体制を整備している。学費担当者を学内に配置し、担任との連携を図り学費で修学をあきらめることのないようにサポートした結果、学費が原因での退学者が減少。また修学支援制度の対象校であり給付型奨学金の活用もサポートしている。 【5-19-2】 慶生会クリニックと連携し、健康診断を行っている。歯科・内科の受診などを奨励し、学生の健康管理サポートは整備されている。健康診断においての課題は2年次の受診率と再検査の受診率の向上を図ることである。また、新型コロナウイルス感染防止に関する安全衛生委員会を姉妹校と立ち上げ、専門家指導のもと「新型コロナウイルス感染防止対策マニュアル」を作成、全学生と講師・教職員に配布、感染予防を徹底して行った。 【5-19-3】 関連企業のジケイスペース㈱が専用寮(スチューデントハイム、アソシエイト)5棟を運営。家具家電を完備、セキュリティ強化も図り安心・安全な学生生活をサポートしている。 【5-19-4】 運動部や文化部、動物系のクラブ活動があり、年間予算・顧問を設けて活動を支援している。 【5-20-1】 新入生および卒業年次生の保護者様を対象に保護者会を開催している。保護者様のご都合に合わせ、対面、オンライン、電話での保護者会を開催し、学校生活の状況や就職活動の支援方法について伝え、家庭との連携を深めている。就職活動の支援方法や業界情報を各専攻毎に資料にして郵送するなどの対策も実施。引き続きご希望に合わせた保護会を実施し連携を構築していく。また高等課程においては保護会を年3回おこなっている。 【5-21-1】 卒業後の再就職支援は常時行っている。またオンライン同窓会では、遠方で参加できなかった卒業生も参加することができ、様々な意見交換や現在の就業状況などを把握することができた。 【5-21-2】 同窓会やOB・OGセミナーを実施し、業界の現状を把握することに努め、業界ごとのニーズにあった再教育プログラムを提供。犬のしつけ教室や動物看護師のセミナーなども開催していたが今年度は中止。今後は他分野の卒業生に向けてのセミナーもオンラインも含め実施を検討していく。 【5-21-3】 業界からのニーズに合わせリカレント教育制度の導入について検討したいが、まだできていないのが現状。今後は愛玩動物看護師の国家資格取得に向けての学び直しなども検討中。	全校学生・生徒数730名 退学者39名 退学率5.3% (2021年度:5.7%、2020年度:5.9%、2019年度:6.2%) 退学率の減少を図るため全教職員対象の研修会を12月に実施。 講師:滋慶学園COMグループ教務運営部長 伊藤先生 成果:退学率の低い学校で行われているチームサポートの方法、毎回の学科ミーティングの在り方を学んだ。 課題:担任だけではなくさまざまな部署が協力して学生をひとり一人サポートしていくチームミーティングを定期的に行う。 滋慶学園グループでは、学生満足度向上のため、様々な支援体制を整備している。 ＜主な支援機関＞ ① 滋慶トータルサポートセンター福岡 ② 医療法人慶生会 慶生会クリニック(内科・歯科) ③ 慶生鍼灸院・整骨院 ④ キャリアセンター ⑤ 滋慶学園専用寮(スチューデントハイム・アソシエイト) ⑥ 学生食堂(滋慶レストラン) ⑦ 事務局会計課 ⑧ 進路変更委員会 ⑨ 滋慶国際交流COM ＜主な支援制度＞ ① 進路変更制度 ② 長期履修制度 ③ 学費分割納入制度 ④ 留学生奨学金制度 ⑤ 滋慶奨学金 ⑥ 担任制度 ⑦ 卒業後教育制度 ⑧ 海外専門留学 ＜その他＞ ① 各種クラブ活動 ② 駐輪場の整備 ③ free WiFi完備 ④ 学園祭・スポーツフェスタ等の学園行事の実施	3.8	・充実したサポート体制で学生たちは安心して通えるのではないかなと思う。 ・手厚い支援体制が整えられており評価できる。 ・退学率も年々減少しており、取り組みの成果と評価できる。 ・退学者に関しては残念であるが、経済的理由や個人的な理由もあるので仕方のないことだと思う。 ・学校の評価通りと思う。 ・学生の支援体制が整っているのは素晴らしいと思う。学生への周知もしっかりできているようなので、しっかりと活用して学生生活を楽しんでほしい。 ・急激な時代の変化の中、スタッフは対応が難しい部分もあるだろうが学生満足度向上のため、支援体制は継続してほしい。 ・奨学金の額にもよるが、将来どうしても不安を持つ学生が多い。 ・Free Wi-Fiがあると学生は通信費の面でも助かり学習にも役立てられるのでとても良いと思う。 ・学生がサークルを作って活動しても良いのではないかな。 ・なるべく多くの保護者に参加してもらえるよう、保護者会の参加方法が多くあることは良いことだと思う。
	5-17-1 退学率の低減が図られているか					
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか					
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか					
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか					
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか					
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか					
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか					
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか					
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか					
	5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか					
	5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか					

6 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4	【6-22-1】 施設・設備は、業界の必要性に応じて整備しており、事業計画の中で毎年、改装・改修・教育機器備品購入なども計画的に実施している。 今年度はドッグトレーニングルーム、犬舎、動物飼育実習室の改装を実施。また長期修繕計画のもと、外壁や消火設備点検や補修なども行っている。	滋慶学園グループには、サポート企業・関連企業が多く存在し、グループ総力を挙げて教育環境 の整備にあたっている。 ＜サポート企業・関連企業の一例＞ ① ジケイ・スペース㈱・・・学生寮や学生食堂の運営 ② DUCE・・・校舎の改修・改装・メンテナンス、清掃、警備などの管理 ③㈱プレーンスタッフコンサルタンツ・・・業務システム、ネットワーク管理 ④ VISTA ARTS・・・ホームページ制作、コンピュータ教育、システム制作、卒業アルバム制作 ⑤滋慶出版・・・教本・教材開発等 ⑥ILC国際語学センター・・・英会話教育等 ＜その他＞ ①ガードマンの配置による安全確保 ②緊急時安否確認システムによる学生の安全確保の推進	3.9	・適切に教育環境が整備されてお評価できる。 ・コロナ禍で海外渡航ができない中、オンラインで対応するなどできる範囲での対応をしており評価できる。 ・教育環境がきちんと整備されていることで、学生も安心して学ぶことができるので適切であると思われる。 ・「経年劣化により、専攻によってはまだ不十分に感じる。 ・防災計画がしっかりとしているので、学生にも災害に対しての危機意識をどう持ってもらうかが課題だと思う。 ・ITリテラシーの部分は家庭での指導だけでは不十分なところが多いと思うので、詳しい方に指導してもらえるのは良いと思う。 ・意義はない。
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか		【6-23-1】 学外実習、業界研修(インターンシップ)先とは綿密な連携をとり実施体制を整えている。 海外研修では、国際部を中心にサポート体制を作っているが2022年度も新型コロナの影響で実施できず。ただ、アフリカ、オーストラリア、アメリカとオンラインで繋ぎ実施できた。動物園やアフリカからライブで野生動物を見せてもらったり、保護施設を見学させてもらった。また、専門留学もできなかったため、オンラインでの語学留学などのできる限り学びを止めないように対策をとっている。2023年度からはオーストラリア、アフリカ研修を実施予定。			
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか		【6-24-1】 防災計画を策定し、それに基づいて防火管理者を始めとして防災組織体制を構築している。また、年2回の避難誘導訓練を実施すると共に、ゲリラ豪雨や竜巻、地震など異常気象に備えて、学生の危機意識の確立を図って安全確保に努めている。ただし、天災は日頃からの備えが重要であり、全員での認識が重要な為、全学生及び教員(非常勤講師)合同での訓練が望ましい。今後更なる充実を図っていく。			
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか		【6-24-2】 ガードマンが常駐し、館内警備にあたると共に、安心安全な教育環境を学生に提供するために、福岡県警察や行政、消費生活センターなどの専門機関と連携をして、自転車安全講習、薬物乱用防止講習、悪徳商法被害防止講習、女性犯罪被害防止講習など様々な安全講習を実施している。			
7 学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	4	【7-25-1】 職業教育を実践する学校として入学前から仕事観・勤労観を持っていたくために、オープンキャンパス(体験入学)やプレカレッジにてお仕事体験を実施し、ひとりひとりの目的・目標を明確にできるように自己発見のサポートを行っている。入学案内やホームページ上でもめざす職業や学びの内容を明確化できている。	＜入学選考の種類＞ AO入試(総合型選抜) 高等学校推薦 指定校推薦(指定校のみ実施) 一般入試(専願・併願) 社会人入試 ＜入学者選抜における配慮＞ ・願書の記載事項、面接での質問等を適正に行うための研修 ・障害のある受験者、LGBT等に配慮した選考 ＜入学者＞ 2022年度 329名 定員370名 充足率88.9% (専門課程2年制50名、3年制214名、4年制38名、高等課程27名) 2023年度 322名 定員370名 充足率87.0% (専門課程2年制72名、3年制193名、4年制30名、高等課程27名) ※2024年度より定員を330名に変更	3.8	・問題なく適切に行われている。 ・ホームページ上で情報が得られたり、オープンキャンパスの周知ができていたので、引き続き取り組んでほしい。 ・SNSでの情報発信も上手に活用できると学校の良いアピールになると思う。 ・入学試験日が選択できるので受験しやすいと思う。 ・来る者拒まずとは否めない。場合によっては授業全体への影響も考えられるのではないかな。 ・奨学金の制度について十分に理解させ、返済義務のあるものについては借金なのでできるだけ借りないように指導した方が良い。 ・少子化の中、入学者数が年々減っていくのは学校の努力だけでは改善しにくい部分があると思う。出願数が減っていないのは、学校の魅力が伝わっているからだと思う。 ・意義はない。
	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか		【7-25-2】 高等学校内での進路ガイダンスや職業理解セミナー、進学サイトやホームページ、オープンキャンパス、動物園・水族館お出かけツアーにてキャリア形成支援と入学前教育を適切かつ効果的に行っている。福岡県専修学校各種学校協会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容を遵守している。また進路選びの多様化からのyoutubeを活用したオンラインオープンキャンパスの実施、LINEやZoomでのOne to One進路相談なども定期的 to 実施をしている。また360°Cバーチャル校舎見学も設置。対面、オンラインのハイブリット型で実施している。			
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか		【7-26-1】 入学募集要項に入学選考基準を明確化しており、適切に運用している。入学選考は学力検査ではなく、作文と面接による将来の仕事や目標などを明確にできているか等、目的意識の確認を行っている。			
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか		【7-26-2】 入学選考での目的意識インタビューとプレゼンテーションシートを把握し、クラス運営の中に活かしている。			
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか		【7-27-1】 授業や実習内容、その他の経費に対応した学納金になっている。			
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか		【7-27-2】 入学辞退者の授業料等については、3月31日までに入学辞退の申し出 があった場合は、入学金を除き学費等を全て返還している。しかし、4月1日以降は、最高裁の判例に基づき、海外研修積立金などの預り金以外は、返金できない。また、このことは、学生募集要項に於いて、「学費一覧」ページと「学費納入スケジュール」ページの2か所に明記している。			

8 財 務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	【8-28-1】 毎年5ヵ年の事業計画を作成し、中長期の視点で5ヵ年の収支予算を立てており、財務基盤は安定している。	当法人の財務情報公開に関しては、下記の通りとなっている。 ＜組織体制＞ 1. 法人統括責任者 2. 学校統括責任者 3. 学校事務担当者 ＜公開資料＞ 1. 財産目録 2. 貸借対照表 3. 収支計算書 4. 事業報告書 5. 監査報告書 ＜閲覧場所＞ 法人本部 本校ホームページで財務・経営情報を公開	4.0	・財務資料はWEB公開もされており、透明性があり問題ない。 ・財務、経営情報を公開しているので評価は適切だと思われる。 ・コロナが続いていた中で赤字が出なかったのは、財務管理や運営計画がしっかりしていたからだと思う。 ・意義はない。
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか		【8-28-2】 5ヵ年計画及び単年度事業計画に基づいて、滋慶学園本部、法人本部、学校がそれぞれの立場から財務分析を行っている。			
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか		【8-29-1】 5ヵ年の予算は、中長期を見越した新学科構想、施設・設備構想、人員構想等を考慮して支出を計画し、将来の学生数等を鑑みながら収入を予測し、収支計画を作成する。			
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか		【8-29-2】 予算の執行管理は計画的に行っている。4期に分け見直しを行っており、予算と執行金額との乖離がある場合は修正予算を組む。			
	8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか		【8-30-1】 学園本部と法人本部の二重チェックの体制となっており、学校の財務体制をしっかりと管理し、健全な学校運営ができています。 また収入と支出のバランスは、理事会で毎年確認されている。 さらに、監査は私立学校法上義務付けられている監事監査のほか、公認会計士による監査も受けている。			
	8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか		【8-31-1】 私立学校法に基づいて、ホームページで財務情報を公開している。現在は、令和3年度財務情報を記載しているが、決算理事会終了後の7月中旬を目途に、令和4年度財務情報に更新予定。			
9 法 令 等 の 遵 守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4	【9-32-1】 法令遵守については、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断し、また学校運営が適切かどうかは各組織体制でチェックできるようにしている。	＜法令順守に係る組織体制・システム＞ ◎組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ) ◎システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COMグループ) 学内にコンプライアンス委員会を設置し、厳格なコンプライアンスの遵守に努めている。委員長は、統括責任者である法人の常務理事が就任し、委員は 学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。 主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発防止対策の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のための啓発活動の推進である。 監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている	4.0	・適切に対応されており問題ない。 ・法令遵守のための組織体制が整っており、学校の評価は適切と思われる。 ・意義はない。
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか		【9-33-1】 学校が保有する個人情報(資料請求者、在校生、卒業生、教職員、講師、実習先など)は個人情報保護法に基づいて、厳格に管理・保護されている。			
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか		【9-34-1】 自己評価は毎年中間評価と年度末の自己評価を実施する体制を整備し、評価を行っている。			
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか		【9-34-2】 自己評価結果は毎年ホームページにて公表している。			
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか		【9-34-3】 年に1回学校関係者評価委員会を開催し、評価・ご意見をいただいている。			
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか		【9-34-4】 学校関係者評価結果は毎年ホームページにて公表している。 (本校HP情報公開 学校関係者評価委員会)			
	9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか		【9-35-1】 教育に関する情報公開はホームページやパンフレット、SNSや学校新聞などに随時掲載している。			

10 社会貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	【10-36-1】 近隣の子どもたちに動物とのふれあいと学びの機会を持っていただけるように『アニマルキッズスクール』を3回実施した。また中学生対象お仕事体験フェスタを8月に滋慶学園福岡合同で実施。2023年度はマリンメッセ福岡で小学生、中学生、高校生を対象とした職業体験フェスタを実施予定。	〈令和4年度の取り組み〉 ①「HAKATA kids Expo」動物のふれあいイベント ②「東公園」 移動動物園・ドッグラン・わん！ダフルフェスタ ③「太宰府特別支援学校」職業理解の出張授業 ④「マリンワールド海の中道」田んぼクラブ	3.2	・社会とのつながりを持つことは学生にとっても有益なので、引き続き進めて頂きたい。 ・近隣住民との接点を作ることも重要で、学校が立地することの利点を感じて頂けるような取り組みも引き続き進めてほしい。 ・コロナ禍で地域への活動がしにくい中、しっかりと地域や社会貢献ができていると思われる。今後も活動を継続し、グループのミッションである社会貢献の大切さを学生にも学んでいってほしい。 ・コロナ禍でできなかった貢献活動をできるだけ増やしてもらいたい。学生の意欲も上がってくると考える。 ・ボランティアを含め、校外活動が増えることは学生にとって非常に有益だと思う。 ・いどう水族館（タッチプール等）も面白いのではないかな。 ・可能な限り協力したい。 ・福岡が県をあげて取り組んでいる「ワンヘルス」に関連した貢献活動ができるのであればニーズは高いと思う。 ・国際交流に関しては、時期的に仕方がなかったと思う。適切に対応できていたと思う。 ・コロナ禍で様々な制限がある中も、しっかりと継続されている。 ・説明通りで意義はない。
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか		【10-36-2】 コロナ禍による渡航制限があった中、韓国の大学から5名来日し学校見学会を実施した。2023年度は渡航が緩和され留学生が増えていくと予想されますので、留学生を対象としたイベントなどを行っていきたい。			
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか		【10-37-1】 動物愛護や環境保全に関するボランティア活動を行っている。犬を対象とした愛護活動を中心としていたが、今後は猫を対象とした愛護を行うため受入準備態勢を整えている。			